

事前復興まちづくり訓練

開催概要

趣 旨：被災状況下で作成する災害復興計画の「復興時に目指すべきまちの姿」について、地域の将来を担う地元の高校生・大学生と市職員が検討する。

参加者：海南市職員、県立海南高等学校生、海南市内在住・出身大学生、市外出身大学生（ファシリテーター役）計 57名（男女比 1：1）

学識経験者：京都大学防災研究所 牧 紀男 教授

内容	時間
オリエンテーション（被災状況、事前復興計画の主な内容）	10分
<講話> 東日本大震災の被災地からの伝言 ～行政の立場で復興に関わった体験より～ 元岩手県大船渡市 副市長 角田 陽介氏（筑波大学客員教授）	30分
<ワークショップ> ① 自己紹介等 ② ステップ1：「地域資源」及び「課題」等の抽出 ③ ステップ2：復興後のイメージ図の作成 復興目標となる海南市の姿(復興スローガン)の決定	150分
（休憩）	10分
発表（7班）	25分
学識経験者等からの講評	10分

<高校生や大学生の意見や感想（抜粋）>

- ・「復興」とは元に戻すのではなく、以前よりももっといい街、住みやすい街に変化させていくことだと気づきました。
- ・伝統的な文化を残しつつ、新しい文化も取り入れる、共存が大切と感じました。
- ・若者の働き手が暮らせる百年後も存在できるまちを次世代に繋ぐために考えました。
- ・将来海南市で住み続け、生きていきたいので、他人事と思うのではなく海南市に住む一人としての責任があると思う。
- ・自分の住み慣れた地域を残していきたいので、これからのまちづくりを手伝っていきたい。

計画へ反映した主なキーワード

- ・地域の将来を担う若い世代との連携
- ・単なる復興に留まらない、若い世代が希望の持てる「より良い復興」につなげる
- ・地域、学生、さまざまな関係者と連携した取組の推進

